

③上手な聴き方(中学校)

『相手が話してよかったと思う聴き方』

1. 展開案

過程	学習活動	教師の働きかけ	留意すること
わかる	1. 本時のめあてを知 る。	○話を聴いているとき、話している友だちが、話を途中でやめたり、不機嫌になってしまったりしたことはありませんか。逆に、ニコニコしながらずっと話が続けて、楽しい時間を過ごすこともあると思います。 ○では、どのような話の聴き方をすればよいでしょうか。今日は、話している人が、「もっと話したい」「話してよかった」と思うような話の聴き方を練習します。	・「上手な聴き方」のスキルを身に付けることで、他人との関係づくりが一層うまくいくことに気付かせる。
相手が話してよかったと思う聴き方を練習しよう			
	2. モデリングを見て、聴き方のポイントを知る。 【モデリング】 I 関心のない様子で II ポイントを意識して	○授業を進める上での約束を確認します。 ・恥ずかしがらない ・冷やかさない ・よいところを見つける  ○これから先生が2つの聴き方を実際にやってみます。どちらの聴き方のどのようなところがよいか、考えながら見てください。（「聞く役」の人）に注目しましょう ○2つの聴き方のどちらがよかったですか。 ○2つ目の聴き方のどんなところがよかったでしょうか。 ○聴き方のポイントをまとめましょう。まず、話している相手の顔を見ます。聴くときは、うなずいたり、相づちを打ったりします。相手の話をさえぎらず、最後まで聴きましょう。また、疑問に思ったことを質問すると話が続きたり、広がったりしていきますね。  【聴き方のポイント】 ・相手の顔を見る ・うなずきながら聴く ・相づちを打つ ・最後まで聴く ・質問する	・約束が必要な理由を添えて説明する。  ・モデリングは、ポイントが分かりやすくなるように演じる。 ※モデリングシナリオ参照 ・提示するポイント以外で、生徒から気が出たら、それらも必要であることを伝える。  ・イメージがつかみにくいポイントは分かりやすく例示して伝える。
やってみる	3. 聴き方のポイントに気を付けながら練習①をする。	○聴き方を練習します。まず、練習①は『そうですねゲーム』を通して、聴き方のポイントの大切さを体験してみます。	・楽しく取り組ませ、ゲームの中で感じた気持ちを交流することで、練習への動機付けを図る。

『そうですねゲーム』

- ・隣の人と2人1組になり、じゃんけんをする。
- ・勝った人は30秒間、教室にあるいろいろなものを指さして、「あれは、○○ですね。」と言いつける。
- ・1回目は、負けた人は指を指された方を見るだけにする。
- ・役割を交代して30秒間取り組む。
- ・2回目は、負けた人は話している相手を見て、指された方を向いた後、「そうですね」と相づちを打ちながらうなづく。
- ・役割を交代して30秒間取り組む。

4. 全体で話し合い、練習①を振り返る。

- 「指を指す役」をしたとき、1回目と2回目、それぞれどんな気持ちになったか、聞いてみましょう。体験してどんな気持ちがしましたか。
- ふり返しシートに自己評価をしましょう。

5. 聴き方のポイントに気を付けながら、練習②をする。

- 4人組になって、ポイントに気を付けながら、聴き方の練習②をしましょう。
- ワークシートを見てください。練習の場面を説明します。
- まず、役割を分担します。始めに役割を決めますが、役割は交代してすべて体験します。
- 「話す役」「聴く役」の人は席を立って練習します。「観察役」の2人は「聴く役」の人を見て、5つのポイントができているかどうかを見てください。もしポイント以外にもよいところがあったら、覚えておいてください。

6. グループで話し合い、練習②を振り返る。

- 練習②を振り返りましょう。「観察役」の2人は5つのポイントができていたか、どんなところがよかったか、具体的に振り返ってください。5つのポイント以外にもよいところがあったら、伝えてください。
- ふり返しシートに自己評価を記入しましょう。
- 3回目の練習で、特に気を付けたいポイントを決めます。ふり返しシートを見て記入しましょう。2回目の練習で全部できていた人は新しくポイントを作ってもいいです。

7. 聴き方のポイント

- では練習③を行います。ワークシートの練習

- ・『そうですねゲーム』の2回目は練習①になることを伝えて、ポイントを意識して行わせる。

- ・ポイントを使って聴いてもらおうと、どのような気持ちになるかを押さえる。
- ・ふり返しシートを配布し、記入させ、よかった点を振り返らせる。

※ふり返しシート参照

- ・ワークシートを示し、場面を説明する。

※ワークシート参照

- ・ふり返しシートとワークシートは両面印刷をしておくとうい。
- ・「話す役」「聴く役」「観察役(2人)」の役割を分担させる。
- ・「役は時計回りでまわす。」など、指示しておくとうスムーズに練習させることができる。
- ・練習でポイントを使って聴くことができている生徒をその都度褒める。

- ・「観察役」には5つのポイント以外にもよいと思ったことを伝えさせる。

- ・最後の練習では、生徒自身がどのポイントを意識して練習に取り組むかを明確にさせ、練習への動機付けを図る。

- ・全員が終わったら、他の場

	<p>に気を付けながら、練習③をする。</p> <p>8. グループで話し合い、練習③を振り返る。</p>	<p>③の欄を見てください。2つの場面を準備しています。どちらの場面を練習するかは「話す役」の人が決めてください。</p> <p>○練習③を振り返りましょう。「観察役」の2人は5つのポイントができていたか、どんなところがよかったか、具体的に振り返ってください。ポイント以外でもよいところがあったら、伝えてください。</p> <p>○ふり返しシートに自己評価を記入しましょう。</p>	<p>面に挑戦してもよいことを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>練習でポイントを使って聴くことができている生徒はその都度褒める。</li> </ul>
<p>ふりかえる</p>	<p>9. 学習のまとめをする。</p>	<p>○今日の活動を振り返ります。ふり返しシートに記入しましょう。</p> <p>○今日は、相手が話してよかったと思う聴き方を練習しました。皆さんの聴き方で、相手が、話すことを快く感じて、友達の輪が更に広がるといいですね。</p> <p>○これから、しばらくチャレンジ週間を行います。普段の生活の中で、今日の学習が生かされたかどうか確認をしながら、自分の人間関係を築く力を向上させていきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート、ふり返しシートを回収する。</li> <li>上手な聴き方のスキルの意義を押さえ、定着化の取組(チャレンジ週間)に向けて、生徒の意欲を高める言葉かけをする。</li> <li>チャレンジ週間の説明をする。</li> </ul> <p>※チャレンジシート参照</p>

## モデリングシナリオ

\*生徒A役は教師が行う。

### 場面設定

休み時間、生徒Bは、昨日の夜に見たUFOのことを話したくて仕方がない。

### モデリングⅠ 関心のない様子で聴く。

生徒A：(席で本を読んでいる。)

生徒B：ねえねえ〇〇さん、昨日の夜、わたし(ぼく)、UFO見ちゃった。

生徒A：はいはい。(本を読んでいる姿勢のまま)

そんなことより、この本おもしろいんだよ。読んでみる？

### モデリングⅡ ポイントを意識して聴く。

生徒A：(席で本を読んでいる)

生徒B：ねえねえ〇〇さん、昨日の夜、わたし(ぼく)、UFO見ちゃった。

生徒A：(体を生徒Bの方に向けて、興味津々で)えっ、本当？どこで？

生徒B：塾の帰り道。星がきれいだなって思って空を見てたら、すごいスピードで光が移動したんだ。それも、ヒュンヒュンって！！

生徒A：へー、すごいね。わたし(僕)は見たことないけど、見てみたいな！

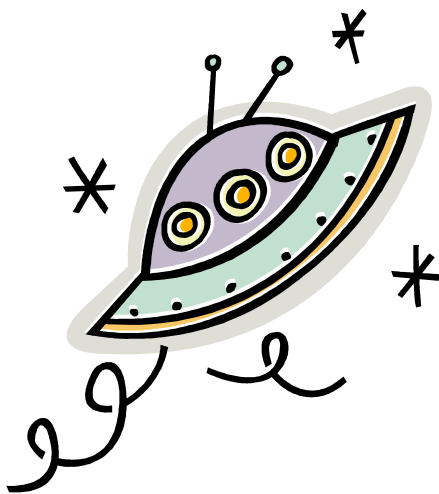
生徒B：うん、初めて見たからびっくりしたよ。

### どちらの聴き方がよかった？

予想される反応：後の方、2番目

### どんなところがよかったかな？

予想される反応：相手に体を向けていた、うなずいていた、相づちを打っていた、質問していた、話を最後まで聴いていた、話が続いていた、話している人が楽しそうだったなど。



### 3. 活用場面のアレンジ例

「③上手な聴き方」のスキルをどのような場面で用いるか、具体的な学校生活の場面をまとめました。ソーシャルスキル・トレーニングを授業で行う際、モデリングやロールプレイのシナリオをアレンジするときの参考にしてください。また、授業後に、スキルの定着化のための働きかけにご利用ください。

- ・ 休み時間友だちの話を聴くとき
- ・ 授業中友だちや先生の話を聴くとき
- ・ 社会体育で指導者の話を聴くとき
- ・ ゲストティーチャーの話を聴くとき
- ・ 講演や集会で話を聴くとき
- ・ 部活動中、先生や先輩・後輩・友達の話聴くとき